

信頼される園・学校づくりの推進

特色ある教育活動の展開

カリキュラムマネジメント



「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、教育課程を中心に据えながら、園・学校の様々な取組を関連させ、組織的かつ計画的に実施する。

指導方法の工夫改善



子どもの感動体験を大切にし、ICTを活用する等、一人ひとりの学びをきめ細かく支援できる指導方法の工夫改善を図り、「学ぶ意欲」を高める。

学校評価の活用



園・学校や地域の実態に応じた評価項目を定め、教育活動や学校運営の目標の達成状況等を評価し、学校として組織的・継続的な改善を図る。

教職員の資質の向上

プロ意識の向上



豊かな人権感覚と実践的な指導力のある教員となるよう研修履歴活用アプリや自己申告評価制度等を活用し、「教育のプロ」として自己研鑽を積む。

指導力の向上



保育・授業研究や教材研究、教職員相互の公開授業等を積極的に行い、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた、指導力向上に努める。

働き方改革の推進



より質の高い保育・授業の実現に向け、現状を見直し、教職員が生き生きと、やりがいを持って働ける環境の整備と働き方改革の推進を図る。

家庭や地域との連携・協働

積極的な情報発信



教育目標・教育内容・教育活動の状況や学校評価の結果等を、園・学校のホームページや各種通信等で、家庭や地域に積極的に発信する。

コミュニティスクールの推進



「郷育」の理念を、学校と地域社会が共有し、コミュニティスクールの設置とその推進に向け、相互に支援・連携する仕組みを構築する。

キャリア教育の充実



地域の特色を生かし、企業等と連携を図り、子どもたちが将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するための力の育成を目指す。

新しい学習指導要領による教育活動が始まって、小学校で5年、中学校で4年が経過しました。もう「新しい」という言葉は不要でしょうか、学校の授業は新しいものになっているのでしょうか？この間に、コロナ禍があり、子ども1人に1台のタブレットが配布され、学びのスタイルはずいぶん変わりました。「個別最適の学び」と「協働的な学び」を意識しながら、子どもが主役となる授業がどれだけ増えているのでしょうか？

すでに、次期学習指導要領改訂に向けて、中央教育審議会での議論が始まっています。1人1台のタブレットを前提とした学習の在り方、デジタル教科書の導入等、多岐にわたって検討が続けられています。

奈良県でも、令和7年度から第3期奈良県教育振興大綱が実施に移され、「奈良の学び推進プラン」が示されます。これらの動きにも注目しながら、目の前の子どもたち一人一人の可能性を最大限に引き出し、これからの時代をたくましく生きていく力を育めるよう、本市各学校・園の教育活動のさらなる充実に取り組んでいきたいと思っています。



大和郡山市教育委員会
教育長 谷 垣 康